



成美っ子

学校だより 令和7年度No.11

ふるさとの魅力に気付く

さくら学級担任 中山 ふづき

毎年1月に「越中万葉かるた大会」が開催されています。「越中万葉かるた」は、富山県に関連した万葉集からつくられています。私は、小学生の頃、万葉かるたが大好きでした。4年生と5年生の時には、万葉かるたクラブに入り、楽しく活動していました。小学校を卒業してからは万葉かるたをする機会はありませんでしたが、教員になってから、子供たちがかるとをする姿を目にすると、とても懐かしく、かるたの練習に取り組んでいた小学校時代を思い出します。

私が通っていた小学校では、冬になると毎朝、万葉かるたの練習をしていました。みんなで和室に集まり、4人ずつのグループで競い合います。取った札の数がグループの中で一番多ければ一つ上のグループへ、一番少なければ一つ下のグループへ移動し、再び競い合うという流れで練習しており、一つでも上のグループになろうと日々練習に取り組んでいました。どのようにかるたを並べるかを考えたり、何文字目で取れる札なのかを調べたりしながら練習したことで、取れる札が少しずつ増えていきました。しかし、思うように札を取れず、悔しい思いもたくさんしました。そのたびに、苦手な札を何度も読んで覚えたり、家で祖母に札を読んでもらったりしながら練習を続けました。札を1枚ずつ覚えていき、取れる札の枚数が増えた時の喜びは、とても大きかったです。友達と切磋琢磨しながら万葉かるたに取り組んだことは、小学校時代の大切な思い出の一つになっています。

小学生の頃は、札を多く取ることに夢中で、どんな内容の歌なのか、どんな場所についての歌なのかを考えることはほとんどありませんでした。しかし、大人になった今、改めて歌を聞くと、当時の人々が富山県の山や海を見ながら歌を詠んでいる姿が思い浮かび、歌の意味が分かったり、詠んだ人の思いに気付いたりすることができました。立山連峰や雨晴海岸、そして成美小学校からも見える二上山等、私たちの身近な風景も歌に詠まれています。富山県の魅力とも言える美しい景色は、昔から人々の心を魅了し、大切に残されているということに万葉かるたを通して気付くことができました。



【成美小から見える二上山】

私は現在、万葉かるたクラブの担当をしており、読み手として札を読んだり、子供たちと一緒にかるたに参加したりしながら活動しています。これからも、かるたで詠まれる歌から、ふるさとの魅力を感じながら、子供たちと一緒に「越中万葉かるた」を楽しみたいと思います。